成果（○）と課題（●）　　校番（２０）　【港町小学校】

１　「本質的な問い」による単元構想について

○　校舎建て替えに向けて，本質的な問い「港町小学校に受け継がれている思いとは何だろう。」と意識させ，「自分にできること」という課題を設定し，その課題解決に向けて考えを深める活動を構想した。単元の導入では，児童が集めた多くの学校の歴史的な資料や昔の写真を読み取る際，当時の様子や今との変化だけでなく，本質的な問いにある人々の「思い」を感じ取りまとめることを意識させた。その後，児童の課題から，校舎で発見したタイムカプセルの作成者にインタビューしたり，祖父の時代にあたる卒業生の方を招聘し，当時の話や校舎への思い，在校生に対するメッセージなどを直接聞いたりする活動を取り入れたことで受け継がれている思いに迫り，実感を伴った理解につなげることができた。導入で人々の「思い」を実感させたことは，次時の課題である「港町小学校の歴史や人々の思いを伝える方法を考えたい。」につながるものになった。

●　単元の成果を発表する「港町ミュージアム」開催に至るまで，予想以上に時間がかかったことが課題である。児童にゴールへの見通しをもたせ，指導者が活動できる時間を明確にすることが必要であった。

２　単元で育成を目指す資質・能力について

【思考力・判断力・表現力】

○　アンケート調査「答えが出ない課題にぶつかった時にあなたならどうしますか」という質問項目で，事後調査では「考えても答えが出なければあきらめる」という児童が減少，「答えが出なければ友達と協力して納得のいく答えを出す」という児童の割合が 82.4%から90%に増加した。課題解決に向けて，自分から進んで取り組む姿やグループ内で相手の意見を受け入れたり，自分の意見と統合したりしながら自分達の考えを見出そうとする姿が多く見られるようになった。

○　「港町ミュージアム」での歴史を振り返る空間の表現方法をグループごとに考える学習活動では，意見をそのまま選んだり統合したりするのではなく，児童自身が目的に応じて考えたテーマや規準に照らし合わせて，比較・分類したり関係付けたりする姿が見られた。

（児童の振り返り）

「表現方法をスライドにするか模型にするかなかなか決まらなかったけれど，グループで賛成意見と反対意見を出し合ったことで，資料を相手に分かりやすく伝えるのはスライドがいいとみんなで納得して決めることができました。」
「グループの中でたくさんの意見が出て１つにまとめるのが難しかったです。規準を考えながらみんなで表現方法を選んでまとめましたが，全体発表の時，その表現方法に決めた理由を分かりやすく伝えられませんでした。次は，もう一度テーマや規準に合っているか確かめたいです。」

●　表現方法をグループごとに考えさせる活動で，児童はテーマや規準を意識して意見を整理・分析しようとしていたが，多くのグループで使用する資料・写真が明確でなく，話合いの際，資料等が手元になかったため，根拠をもって話すことが難しい児童がいた。前時までに，テーマや規準に合わせて伝えたい内容を具体的にし，準備物を準備した上で本活動を実施する必要があった。

３　「デジタル機器」の活用

○　身近な人に港町小学校の歴史や思い出をインタビューする活動で，タブレット端末に質問内容や調べたことをカードにまとめることで，全員の調べたことを効率的に比較・分類・関係付けることができた。また，その活動を通して児童が新たな問いを見出すことができ，次の課題設定につながった。

○　歴史を振り返る空間の表現方法をグループごとに考える学習活動では，タブレット端末の画面で一人一人が考えた意見を出し合い，思考ツール「クラゲチャート」を使って話合いをした。タブレット端末が手元にあるので情報を共有しやすいとともに，友達の意見を聞きながら途中で自分の意見を付け加えたり修正したりすることができることは，話合いを深める手立てとなった。